

# 第39回 長野県幼児教育研究大会分科会 実施報告書

		作成日	27年11月 30日
分科会	第6分科会 テーマ「 これからの保育者育成と教育実習のあり方 」		
分科会日時	平成27年10月31日(土曜日)	13時00分 ~	16時00分
研修会場	飯田女子短期大学 (看護棟1階講義室1) 室	参加人数	55名
助言者名 (所属等含む)	先生		
担当者	運営委員 大森けい子 みすず幼稚園	研究委員	
	責任者 石毛久美子 松本短期大学	司会者 福島全子 みすず幼稚園	
	提案者 宮原千奈津 若穂幼稚園	宮坂君江 文化学園長野専門学校	
	村上由佳 松本青い鳥幼稚園	石毛久美子 松本短期大学	
	記録者 米窪あや子 松本短大幼稚園		
研修会概要	運営責任者：第6分科会は、信州幼児教育研究会におけるテーマ「これからの保育者育成と教育実習のあり方」についての研究を骨子に、幼稚園教諭と養成校教員が「充実感や達成感を高める実習」あるいは「学生達の幼稚園就職への意識を高める学習」について幼稚園と養成校とが連携を図る。		
	司会者：研究大会にあたり、窪田英一会長から「それぞれ各分科会スキルは違うが皆が学べる分科会になるよう」のように、第6分科会を展開していきたい。		
	提案者①宮原（若穂幼）：		
	◎指導上の留意すべき点		
	・実習生の良い所を認め、翌日の活動へ意欲を持ってつながる様、声掛け等の配慮。		
	・実習生の個々にあった指導法の工夫。		
	実習の本来目的とは何か？実習生と指導教諭が共に試行錯誤し、ポイントをしっかり絞り、子どもたちと向き合う楽しさを如何に伝えるか実習生の意欲を掻き立てる指導の配慮⇒良かった点の指摘後、もっとよくなるアドバイス⇒実習生を持つことで、自身の保育を振り返る。実習生にとって魅力的な先生、憧れとなる先生、目標となる先生になるために指導教諭自身が高い意識を持つ必要性。		
	提案者②村上（松本青い鳥幼）：		
	◎園側として、今後配慮する点。		
	・もっと実習生を知ろう！実習生一人ひとりの個性に合わせて指導しよう！		
・楽しかったと思えるような実習に！（子どもと接する喜び 教師の仕事を知ってもらう）			
・実習生が力を発揮できるような、園の雰囲気作り 指導を心がけよう！			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦しいながらもやり遂げた充実感を持って、それを認めてあげるように配慮する。</li> </ul>
	◎養成校へのお願い・・・
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を自由に表現する機会をたくさん作ってほしい（アピール力 言葉・文書力）</li> <li>・幼稚園での実習をどの様にしたいかの思いを固めて実習に臨んでほしい。</li> </ul>
	（いっぱい遊ぼう たくさん関わろう 子どものすごい所ってどこ 幼稚園の良さって何など）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験の不足を少しでも補えるような実体験をしてきてほしい。</li> </ul>
	（遊ぶおもしろさを知っている 子どもと関わったことがある 様々な実体験で心動かすなど）
	提案者③石毛（松本短期大学）：
	◎入学時の志望とその後の変化
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学校、実習経験を通じて、保育という職域や領域ごとに期待される職務内容の輪郭掴みながらキャリアを描く学生たち。</li> </ul>
	◎学生の視点から見た実習機会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれて初めて幼稚園を知る機会＝“実習”という学生が少ない→幼稚園に対するイメージを形成する機会</li> <li>・理論と実践をつないで学びを深める→短大での学びと、幼稚園での学びを繋いで、繋いだところから様々なことを発見する自己学習の機会。</li> </ul>
	◎学生が感じる実習における充実感や達成感
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに可能性を感じられると、幼稚園への就職を具体的に考えられるようになる。</li> </ul>
	◎養成校における実習および実習指導の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア形成を促し、支援する立場として、幼稚園の将来ビジョンを理解する。</li> </ul>
	提案者④宮坂（文化学園長野専門学校）：
	◎教育学習における指導のガイドライン
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会に関わった内容、ガイドラインとして教育実習の説明。</li> </ul>
	宮川義典先生よりガイドライン作成までの流れをお聞きする。
	幼稚園と養成校懇談会にて委員会設置となり、ガイドラインを作成する。
	各幼稚園浸透することでよりよい実習が行われ幼稚園志向が増えればとの期待感を持つての作成となった。
	質疑応答 付せんに提案者への質問を書き休憩時間に読んでもらう。
	休憩後応答時間
成果と課題	グループ討議 6名のグループ 6グループ
	討議の柱 実習において幼稚園と養成校が共有すべき事柄や課題は何か
	実習の課題 工夫できる点 改善案
	実践可能な企画はないか
	グループ発表
	① 幼稚園の映像を養成校で学生が観るなどできれば現場を知ってもらえる
	② 指導案を学生と一緒に作成することで発想を生かしてあげられる

	<p>養成校の先生が巡回の時学生さんがホッとした表情になる</p> <p>③ 実習で幼稚園を知ってもらい、見本となる関わりを教諭自身が示す</p> <p>④ 基本的なマナー</p> <p>幼稚園と保育所の違いを養成校で教えてきてもらう</p> <p>⑤ 課題：楽しいと思える体験やあそび</p> <p>実習：課題を明確にする 例 自己紹介の仕方</p> <p>達成感を得られる</p> <p>⑥ 指導案と日誌</p> <p>養成校で書き方の指導を統一してもらうことで、スムーズにはいれる</p> <p>ガイドラインがあることで共通理解ができた、実習生には実習が大変な中でもやりがいを感じてもらいたい</p> <p>質問：実習の評価（評定票）について</p> <p>どこまで出来てAなのかBなのか悩む</p> <p>総評 言葉で書く欄への内容について</p> <p>養成校 石毛（松本短期大学）</p> <p>学生たちにどこまでの達成度とするか</p> <p>どこに重点をおいてよいのか</p> <p>問いかけをしながら評定票をみている</p> <p>宮坂（文化学園長野専門学校）</p> <p>自分で読ませることで自分で受け止めるようになっている</p>
配布資料	提案者 4名より各々資料配布
使用機器等	
記録写真	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

